



市民フロンティア



CS 神戸は、**自立と共生**を目指し、より良い社会のために主体的に活動する人々をサポートするとともに、自らの活動を通じて、誰もが尊重され支えあう地域社会の実現をめざします。

2017 年 6 月 25 日発行 **通巻 82 号**



20 年プラス 1 年目が始まりました！

さる 5 月 28 日（日）、第 29 回 CS 神戸の通常総会を開催しました。正会員と多くのスタッフが顔を合わせ、2016 年度の事業報告および 2017 年度の事業計画をしっかりと確認しました。2016 年度を振り返ると、特筆すべきは、書籍『希望につながるコミュニティ』を出版したこと、そして 200 名以上の参加を得て記念パーティを開催したことではないでしょうか。特にパーティでは、多くの方の励ましや期待を肌で感じることができ、役員・スタッフ一同、非常に勇気づけられました。

活動の現場では、本部を含めた 5 拠点が地域のプラットフォーム（人と地域を結ぶ場、新たな活躍の場）として機能し、以下の通り、多くの活動者やグループが誕生しました。



新規相談者 827 名、講座数 126 本、講座受講生 3,128 名

立ち上げ団体 55 団体、新規活動者 778 名

（2016 年 4 月～2017 年 3 月）

2017 年度はこれまでの実績を携えつつ、今後の方向性を見出していく重要な 1 年になろうかと思います。「自立と共生」のミッションをより明確に、より具現化させやすいよう全 18 事業を ①中間支援事業、②人材養成事業、③コミュニティ支援事業に再編します。特に CS 神戸が独自に生み出した「アテンド・クルー」（高齢者対象の有償ボランティアチーム）等の新サービスの創出、居場所の立ち上げや運営等の人材養成研修の拡充、企業との協働モデルの実施に重点的に取り組む予定です。すでに着手した新規事業もあり、2017 年度も忙しくなりそうです！。事業実施体制については、常に新陳代謝が起こり、各プロジェクトが有機的に連携しながら、より CS 神戸としての総合力が発揮できるような組織づくりを目指します。

最後に（またしても）お願いします。

CS 神戸は 2017 年度下半期に 5 年に 1 度の認定 NPO 法人の更新時期を迎えます。『3000 円の寄付者が毎年 100 名以上』という基準をクリアし、引き続き、多くの方々に支えられる団体として、皆様とともに活動を続けていきたいと思ひます。賛助会費の 8 割は CS 神戸独自の基金である「市民活動サポート基金」に繰り入れ、地域課題の解決に向けて活動する団体の応援資金になります。ご協力いただければ幸いです。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

2017 年度理事会・総会報告

～ 2017 年度 理事会・総会を開催しました ～



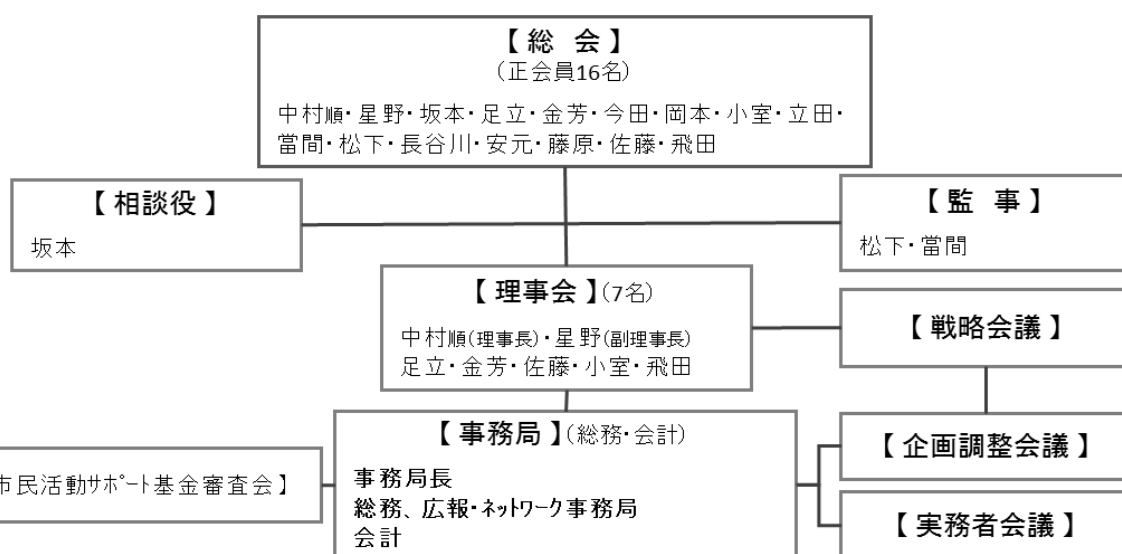
2017 年度通常総会が 5 月 28 日（日）午前 10 時 30 分から 12 時 20 分まで、CS 神戸事務所において開催されました。正会員 15 名（うち 1 名が書面にて参加）、陪席としてスタッフ 16 名、計 31 名が出席しました。

審議の結果、第 1 号議案（2016 年度事業報告および決算）、第 2 号議案（2017 年度事業計画および予算）が可決・承認されました。

20 年続けてきたことで、ともすれば内向きな考えになりがちですが、企業や行政などこれまで経験した立場からの視点・ご意見をいただき、新たな視点や意識を持つことができた貴重な機会となりました。

また、総会に先立って 2017 年度第 1 回理事会を同日午前 9 時 30 分から 10 時 20 分まで開催し、理事 7 名全員が出席、監事 2 名が陪席し、総会に提案する諸議案を審議して決議しました。（長井明子）

【2017 年度（平成 29 年度）組織図】



	市民活動支援部										地域活動事業部			
	【中間支援事業】					【人材養成事業】					【コミュニティ支援事業】			
プロジェクト名	① 生きがいしごとサポートセンター神戸東	② 神戸市 NPO 認証支援事業	③ コミュニティ・ビジネスインターンシップ	④ 市民活動サポート基金	⑤ 各種ネットワーク事務局	⑥ 介護サービス情報の外部評価・公表調査	⑦ 社会貢献塾・CB 実践講座	⑧ 居場所所立ち上げ・運営支援	⑨ 生活支援・介護予防サポーター養成研修	⑩ 地域リーダー養成・住民主体の地域支援事業の開発	⑪ 東灘区民センター小ホール	⑫ JR 住吉駅前駐輪場	⑬ まちづくりスポット神戸	⑭ 生きがい活動ステーション

<スタッフ構成>

■ 常勤・準常勤

10 人

(男性 3 人、女性 7 人)

■ 非常勤・臨時雇用

21 人

(男性 15 人、女性 6 人)

■ ボランティア

約 160 人

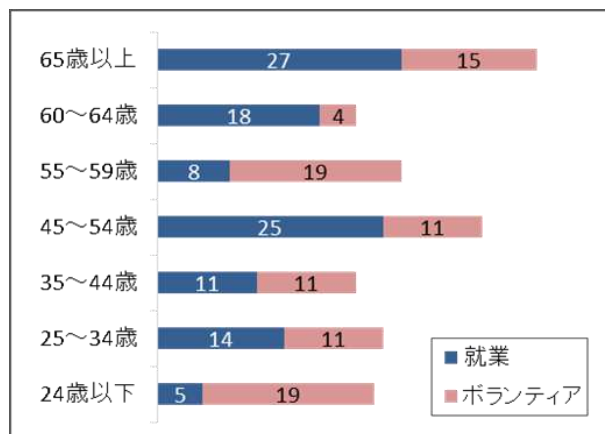
2016 年度事業報告

～ 地域の福祉とつながりを広げてきました ～

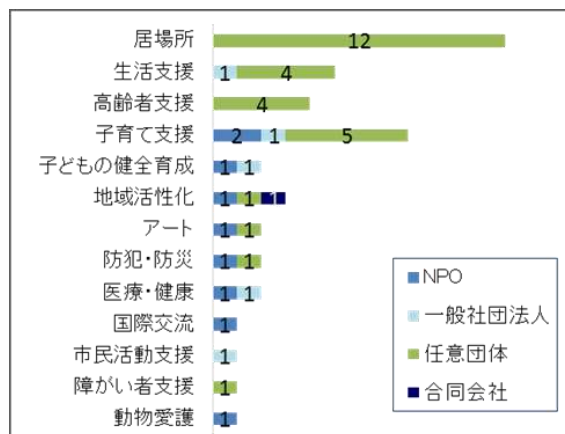
市民活動支援部 ～ 相談・講座・助成を通じて、市民の活動を支援します ～

✓ 生きがいごとサポートセンター神戸東／神戸市 NPO 認証支援事業

面談による相談は、年間 2,107 名の方々と行いました。うち起業相談者は 207 名で、居場所や生活支援といった地域に根付いた事業を行う小さな起業が目立ちました。就業の新規相談者は 273 名で、昨年同様 65 歳以上の相談者が目立ったほか、年齢を問わずボランティア希望者も多く見られました。



【就業成立者数（108 名）】



【起業成立数 44 団体（うち拡充 2 団体）】

神戸市 NPO 認証支援事業では前年度より多い 9 団体の設立サポートを行いました。設立時に一般社団法人を選択する団体が 3 団体あり、今後もこの傾向は続くものと考えられます。一方、運営相談は昨年度より減少し、99 件行いました。

セミナーは、9 月には「NPO のつくり方」、3 月には「NPO 会計の基礎講座＆お悩み相談」を開催し、合計で 37 名の参加がありました。今後も NPO への理解者を増やすと共に将来の設立候補育成、NPO 活動参加者を増やすことにつながる取り組みとして適時テーマを設定しセミナーを開催していきます。（人羅亜矢子）

✓ ハンズオン・インターンシップ事業

最終年度となった今年度は、就労困難な若者が外部の協力団体で研修をしながら就労を目指しました。2 名のインターンのうち、1 名が就業を果たしました。

また、関係者で 5 年間の成果をまとめる「振り返りの会」を 2 月に開催しました。「NPO 法人育て上げネット」の工藤啓氏に基調講演をいただいたほか、元メンターや外部研修受け入れ団体によるワークショップにより成果と課題をまとめました。福祉制度と就労支援の狭間におり、どこからも支援を受けられなかった若者を支援できたことが一番の価値であり、寄り添い型支援によりインターン生 27 名のうち 8 割が就労や大学への復帰、障がい者手帳の取得など、次の進路に進めたことは大きな成果でした。（山村弘美）



✓ 市民活動サポート基金

市民活動サポート基金では、年 2 回の選考委員会を経て、下記 7 団体へ助成金を交付しました。地域のニーズに沿い、居場所や生活支援を行う団体への助成が目立ちました。前年まで同様、草の根の市民活動を支える重要な役割を担う団体への助成金となっています。（山村弘美）

※助成先団体のコメント

準備段階から、有効に活用でき
費用の事だけでなく、精神的にも
助かりました。有難うございました。

生活支援・ピーターパン

行政補助が無いスタートだったので
助成が決まった時は、ほっと一安心。
審査会で問われた継続的な運営方法について
は模索中ですが、楽しく開催しています。

NPO 法人ケアット

※『KOBE にこスプーンプロジェクト』
（子ども食堂）

2016 年度 市民活動サポート基金 助成先一覧



団体名	事業名	金額
アテンド・ハッピー中央	地域でのボランティアな相互扶助活動	70,000円
本庄コミュニティ「ひだまり」	ひだまりの集い 日曜うた広場	60,000円
ひがしなだクルー	生活支援と介護サポーター	50,000円
生活支援・ピーターパン	住民主体訪問サービス	70,000円
つながる まんまるうサロン	まんまるうサロン運営	30,000円
NPO法人ケアット	KOBEにこスプーンプロジェクト	250,000円
都市と山村をむすぶ会	都市と山村をむすぶ会の作業場新設	250,000円
合計		780,000円



研修講座／ネットワーク事業 ～ 人材育成や他セクターとのネットワーク構築につとめます ～

✓ 社会貢献塾・CB 実践講座

今年度の「社会貢献塾」は 20 名が受講しました。前半の「スタディゼミ」は座学を中心に 4 日間、後半の「インターゼミ」は地域調査やグループワークを中心に 6 日間、計 10 日間のプログラムでした。特に 4 日目に行った「修了生パネル」は人気が高く、居場所を始めた人、紙芝居のグループを立ち上げた人、自治会長になった人など、多様な分野でご活躍の修了生に体験談を語っていただきました。昨年度からの継続相談者を含むと、8 名が NPO 等活動している団体に参加、5 名が起業準備、4 名がコミュニティレストランや介護タクシー等の事業を立ち上げました。

「社会貢献塾」の上級コースである「CB 実践講座」には 16 名が参加、現在 5 名が起業準備に入っています。(飛田敦子)



✓ 居場所運営支援・地域リーダー養成講座



ひょうごボランティアプラザの助成金を得て「居場所運営支援事業」と「地域リーダー養成講座」を実施しました。「居場所運営支援事業」では、8 月に「第 1 回居場所サミット in 神戸」を開催、222 名の参加を得ました。実践者のパネルディスカッションに続いて、マップづくりのワークショップを行い、区ごとの居場所情報を可視化しました。また開催曜日や場所等の基本情報を集め、275 ヶ所を掲載した「わがまち居場所 BigMap データ集 Vol.1」を 450 部発刊、ネットでも情報が閲覧できるようにしました。

「地域リーダー養成講座」では 3 日間のマネジメント研修を実施、「SWOT 分析」、「バランス・スコア・カード (BSC)」、「行政の役割と地方自治の今後」などのプログラムを実施しました。(飛田敦子)

✓ 地域 CB 支援事業

県内の生きサポ未設置地域である相生市で、商店街の活性化支援の一環として「CB 起業実践講座」(10/15・10/22・11/19・12/26) を実施しました。今回の講座の大きな特徴としては、商店街の貸しスペースで講座を行ったこと、実際にチャレンジショップを運営したことでした。小さなものでも実際に運営してみることで、見えていなかった経費や人の動きがわかり、足りないものを知るとともに、実現できるという自信もついたようでした。CS 神戸では座学だけではなく、実践や現場での体験を重視してきましたが、この体験を経て、より「動く」ことの効果を体感した講座になりました。(人羅亜矢子)



福祉推進事業 ～ 高齢者が安心して過ごせるまちづくり・縁づくりをしています ～

✓ 神戸市生活支援サービス基盤整備事業

前年度の実績を基に、神戸市主催の「生活支援・介護予防サポーター養成研修事業」に応募し、第 3 期の東部ブロック（東灘、灘、中央）と西部ブロック（須磨、垂水、西）、追加で開催された第 4 期（全市一括）を受託しました。

生活支援サポーターに必要な基礎知識を習得する講義に加え、地域活動の現場体験や活動者のパネルディスカッションにより現場の理解を深める研修を実施。3 つの研修により 150 名の修了生を輩出しました。

また、研修後の区別サロンやフォローアップ研修において、事務局が個別にフォローし、受講生の 60% が地域で活動されるという成果を収めました。（白井一彦）

地域活動事業部 ～ 地域密着型の事業を展開しています ～

✓ JR 住吉駅前駐輪場

神戸市の指定管理第 4 期の公募の年でしたが、他の NPO 団体を上回る高得点で更新を果たし、指定期間 2017.4～2020.3 の新たな協定書を交わしました。

ここ数年で新たな人材が加わり、スタッフ 14 名(平均年齢 74 歳)の内の半数を占めています。年齢とスキル習熟に応じた働き方でシフトの見直しを行うと同時に、新たなリーダー体制で新人の能力アップに取り組んでいます。P C 利用で業務効率化をさらにすすめ、P C 操作マニュアルの作成などスタッフ全員が P C 操作に慣れてきています。スタッフ自らが P C での資料作成を提案しています。

今年度からは地域貢献活動の一環として、駐輪場認知症サポーター推進活動をはじめました。第一ステップで現場スタッフ全員が認知症サポーター研修を受講しました。受講者の証であるオレンジリング 13 個の画像を掲示し、スタッフが認知症サポーターであることを明示し、見守りをはじめています。次のステップとして“あんしんすこやかセンター”へのつなぎなど具体的な役割を、区の窓口と相談しながら進めます。



また、近隣の施設の障がい者の方との指導業務や清掃活動など、7 団体延べ 552 名の障がい者有償ボランティアの参加を得ています。さらには、トライやる・ウィークやインターンシップの受入など地域貢献メニューへの参加数を増やす活動に注力しています。（柳井俊郎）

✓ 東灘区民センター小ホール

指定管理者として、施設の管理運営業務、貸館業務、地域文化活性化事業、自主事業を実施しました。

地域文化の発掘・育成・支援を目指し、創作ダンス「動物になって踊ろう」で身体表現を学ぶワークショップや「クラリネットアンサンブルをみんなで楽しく学ぶ」ワークショップに小学生～中学生が挑戦しました。また地域を知る「東灘名所めぐり」では、東灘に残る民話の世界を桂三ノ助さんによるミニ落語でお伝えしました。

毎年実施しているひがしなだ区民カレッジは、教える人と教わる人が地域で循環する仕組みになっています。2016 年は芸術文化や生活文化で市民講師 10 人による講座を延べ 79 回実施し、市民講師としてチャレンジして頂きました。



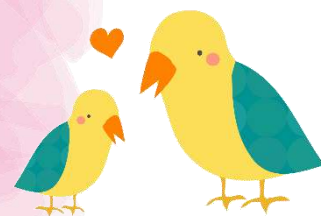
自主事業では、1 月 21 日に「イザ！カエルキャラバン in ひがしなだ」を開催しました。地域の自治会、ボランティアグループ、NPO、中学生、高校生、大学生の協力を得て、おもちゃの物々交換と防災プログラムを組み合わせた防災イベントで楽しく防災を学びました。

さらに初めての取り組みとして、3 月 18 日に地域活動とアートのつながりを模索するため「アート×ソーシャル」を行い、アートを使って活動している団体同士のワークショップを開催しました。（兵頭修也）

✓ まちづくりスポット神戸

2016 年度の登録団体数は 57 団体（前年度比 8 団体増）来館者数 17,251 名（前年度比 3,775 名増）、コミュニティルーム利用件数 805 件（前年度比 105 件増）、第 3 回目となった「まちスポ神戸ふれあいまつり」も恒例イベントとなり、開設から 3 年半を経てまちスポ神戸の認知度が高まってきたことを実感できた 1 年でした。

「カレッジ音楽祭」では、企画・運営から学生が主体となって考え、実行委員会を重ね、学生の出演者数は 100 名、遠方からの一般の音楽ファンも取り込み 550 名の方が来場しました。また、テナント会・兵庫県立大・まちスポとの連携講座「ユニクロの経営から学ぶ大学生のキャリア形成」を開催し、起業家の生の声を聴く機会となり、三者の連携による新たな取り組みとなりました。



3 月には、周辺自治会、子ども会、企業と連携した防災学習「地域とともにまなぼうさい」を開催。9 月から打合せを重ね、これまで交流のなかった自治会同士が、これを機に「同じ地域に住む住民同士で協力しあっていこう」という機運が高まり、当日は、650 名の方が参加しました。（向山良子）

✓ 生きがい活動ステーション



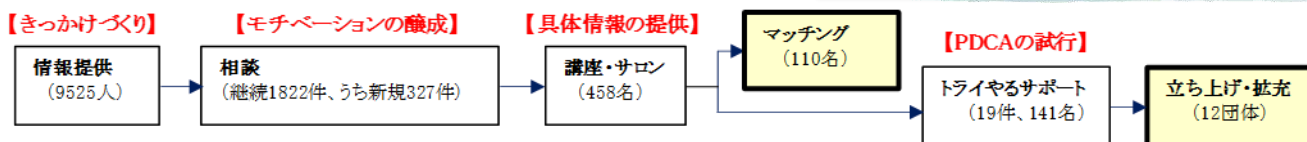
昨年度に引き続き、公益財団法人神戸いきいき勤労財団と協働で ①情報提供・相談、②講座・サロン、③トライやるサポート、の 3 本柱で取り組みました。

2016 年度の情報提供者数は 9525 人、相談件数は 1822 件でいずれも昨年度を上回りました。講座・サロンでは、「市民塾」を 8 回実施、延べ 458 人が参加しました。また「居場所コーディネーター養成講座」には、17 名が参加し、六甲道勤労市民センター内の料理教室の空き日を利用した「まちかど食堂」の実施に至りました。2017 年度から月 1 回開催し、子どもから高齢者まで食を通じて交流する場になりつつあります。



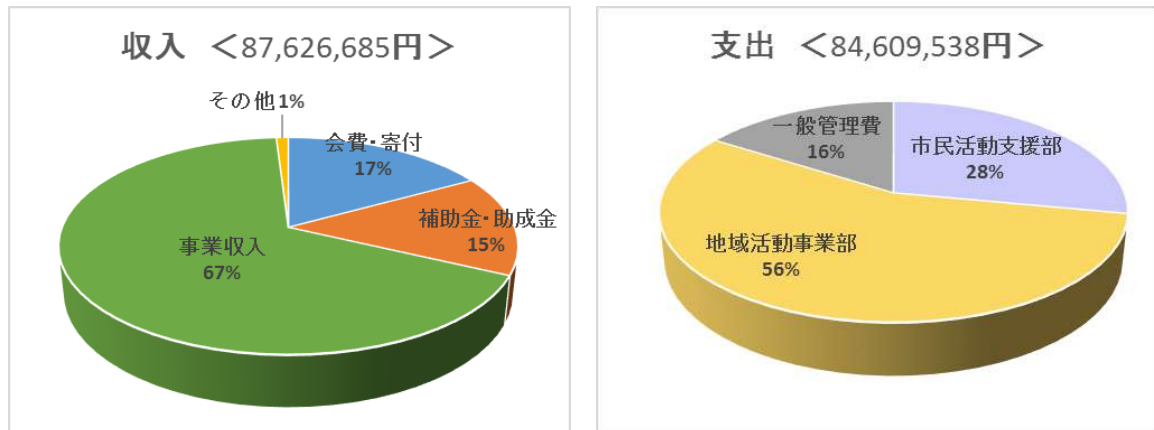
仲間集めや講座のお試しの場として活用して頂いているトライやるサポートの利用は 19 件で、参加者は 141 名となりました。結果的に、高齢者の生活支援や児童館のイベント補助など NPO や地域活動等へのマッチングは 110 件、地域の居場所や介護タクシーなど 12 グループとなりました。（飛田敦子）

<生きがい活動ステーションのサポートの流れ>



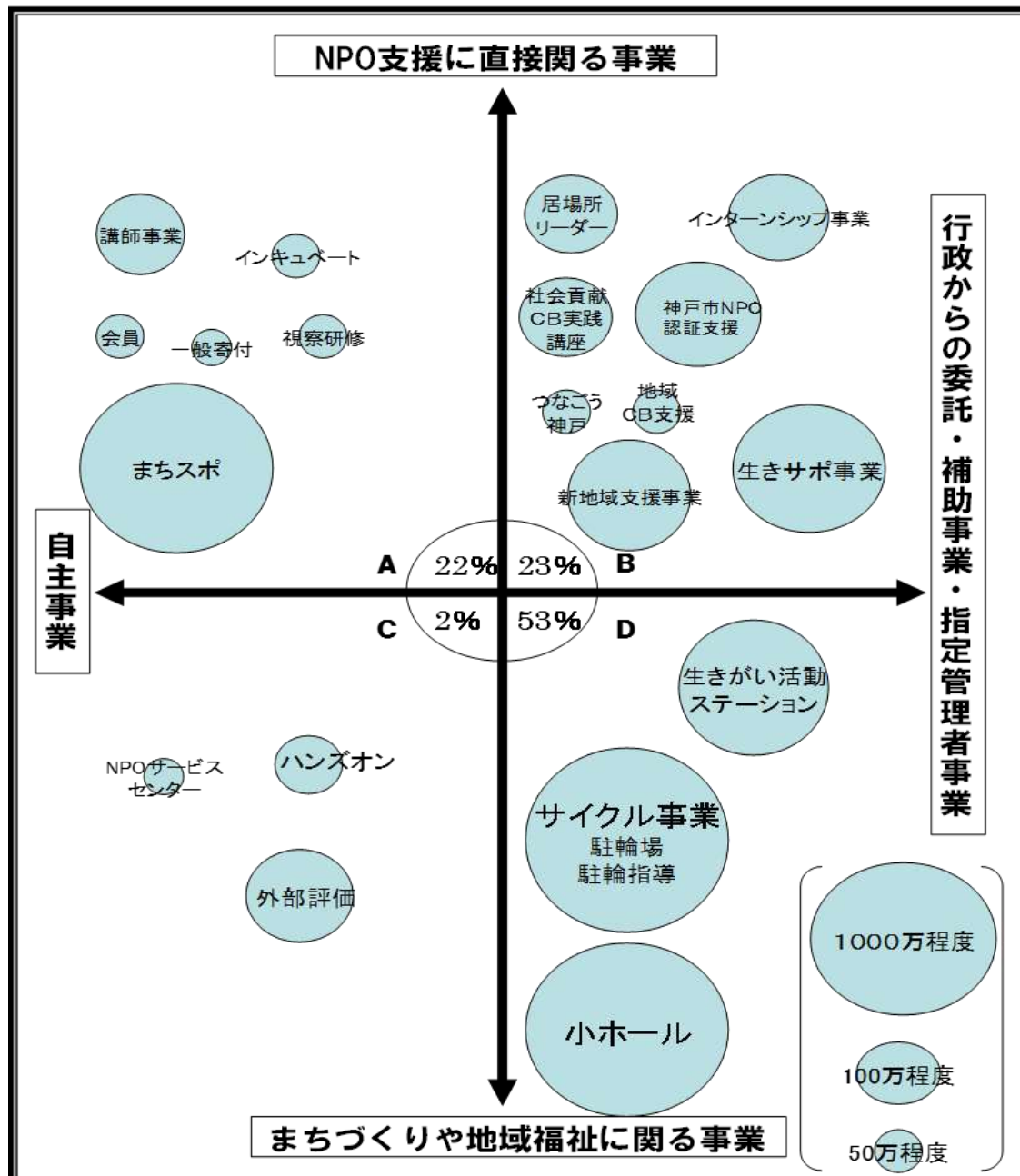
2016 年度会計報告

2016 年度決算は経常収益 87,626,685 円、経常費用 84,609,538 円、当期正味財産増減額 3,017,147 円となりました。
詳細は以下の通りです。



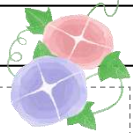
CS神戸における事業構成 2016年度決算

総額: 8763万円



新人紹介

～ 2 名のスタッフが仲間入りしました ～



松元 隆平【外部評価・生活支援・介護サポーター養成事業】

随分前から仕事やボランティアで CS 神戸に出入りし「いずれは」と思っていました。定年延長に 4 年で区切りをつけて勇躍入職、フレッシュな気持で頑張ります。東灘区東北隅の高台で活発な妻 & 芝ワンコと共に暮らしています。よろしくお願い致します。

大黒 洋一【小ホール】

定年退職後の社会貢献、自己成長 & サマナーを求めワビ一を訪問したのがご縁を頂くきっかけです。グローバル化の対極であるローカル化＝食・エネルギー・ケアのコミュニティ自給＝と、都市における自然循環の回復に興味を持つ、六十六翁の新人です。

《予告》第 2 回居場所サミット in 神戸 開催！

～ 昨年大盛況だったイベントを今年もやります！ ～

昨年度 200 名以上の参加があった居場所サミットを今年も開催します。今年のテーマは【あつまる、はなす、次への一步】。新潟県で自主的に 200 ヶ所以上に広がった「地域の茶の間」の創設者である河田圭子さんの基調講演や、区別のワークショップを通じて地域の居場所の創設や運営のヒントを探ります。

【開催日時】 2017 年 8 月 27 日（日）12:00～16:15

【開催会場】 神戸市勤労会館 7 階大ホール（定員 200 名）

【参加費用】 500 円

＜プログラム＞

12:00～ 居場所に役立つみよりプログラムブース紹介

13:15～ 第 1 部 基調講演 河田圭子さん（「地域の茶の間」創設者）

14:45～ 第 2 部 グループワーク（16:15 終了）

詳細・問い合わせは
CS神戸まで。



第 1 回「居場所サミット in 神戸」の様子

会員 寄付 お礼

～ 応援いただき、ありがとうございます！ ～

（2017 年 2 月 1 日～ 5 月 31 日）

【会員】

岡本 仁宏、松下 忠義、中村 順子、立田 英雄、足立 勝、小室 邦夫、星野 裕志、當間 克維、藤原 和男、坂本 登、大西 佐知子、中村 大知、津田 久雄、川島 悦子、池田 康二、一般社団法人クルレ、山内 延浩、加藤 正博、広井 かほる、加藤 由紀子、兵頭 修也、平野 久美、檜垣 忠、長岡 聖美、大黒 洋一、吉本 隆光、宮垣 元、三好 祥世、カタオカネットワーク、中山 照彦、中村 保佑、医療法人明倫会 宮地病院、神田 典治、山本 好克、大脇 和代、端 信行、大西 洋助、稲田 薫、井上 隆文、新庄 達也、西田 幸夫、森 功、檜谷 實、川上 範男、増金 祐次、北川 浩二、尾山 宗久、遠田 豊成、原 祥隆、上田 弘、ヒューマンスキル研究所、田辺 友也（順不同）

【寄付】

武藤 由美子、大久保 和雄、河合 将生、於勢 昌樹、朴 京守、中村 順子、小室 邦夫、飛田 敦子、大和リース株式会社（順不同）

前号で一部掲載漏れの方がおられました。申し訳ございませんでした。今号であわせて掲載させていただきます。

2017 度の会費継続をお願いします

市民活動を共に支えてくださる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。

【会費】

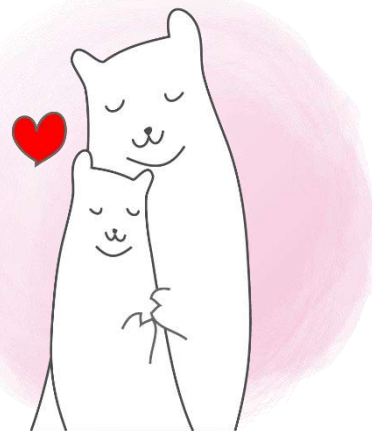
個人会費：3,000 円／年

団体会費：10,000 円／年

【振込先】

名義：NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸

郵便振替 00950-2-144205



認定 NPO 法人 コミュニティ・サポートセンター神戸（CS 神戸）

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町 5-2-2 ビュータワー住吉館 104

TEL：078-841-0310／FAX：078-841-0312／E-MAIL：office@cskobe.com

2017 年 6 月 25 日発行 通巻 82 号（発行人：中村順子 編集人：長井明子）

編集後記

この蒸し暑い時期、何よりの楽しみは冷えたビールです！最近では特色あるビアガーデンが多くて、目移りしそうです。（N）